

2005 日消連第 3 号

2005 年 4 月 29 日

独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

〒 162-0042 東京都新宿区早稲田町 75 日研ビル 2 階

日本消費者連盟

代表運営委員 富山 洋子



遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求めます

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、遺伝子組み換えイネを開発し、今年度、隔離圃場にて野外実験を行おうとされています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が增大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしています。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。農業・農家を守るために、北海道では遺伝子組み換え作物栽培規制条例が制定されました。

新潟県は日本で有数の、優良な米の産地です。今回の遺伝子組み換えイネは低農薬や病害への抵抗性による生産者メリットを強調されていますが、生産者の間では交雑への不安も高まり、風評被害などにより、新潟産のお米が売れなくなるという事態も心配されています。

新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

(連絡先)

03-5155-4765 / FAX03-5155-4767

e-mail nishoren @ jca.apc.org

疎
甲
第

109

号
証

甲
第

46

号
証

9

1

5

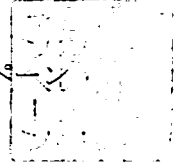
29

2005年4月29日

独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン

代表 天笠 啓祐



遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GM イネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）を行おうとしています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。農業・農家を守るために、北海道では遺伝子組み換え作物栽培規制条例が制定されました。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

(連絡先)

〒162-0042 東京都新宿区早稲田町 75 日研ビル 2 階

遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン

TEL 03-5155-4756 / FAX03-5155-4767

e-mail no-gmo @ jca.apc.org

2005年9月10日

独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

新潟県総合生活協同組合
理事長 渋谷 昭彦



遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める再申入書

貴センターでは、多くの県民の声を無視しカラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、いまだ情報公開もまともにせず野外実験（隔離圃場）を強行しています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県内の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現すると専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が增大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟県の農業を守り、農家や消費者を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を強く求めます。

(連絡先) 新潟県新潟市新光町6番地6

新潟県総合生活協同組合 常務理事 松田 裕

TEL 025-260-3283 FAX 025-260-3265

2005年9月7日

独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構

中央農業総合研究センター 北陸研究センター所長 殿

「遺伝子組み換えイネ(カラシナ由来の抗菌性タンパク質をもつ
複合対病性イネ系統)の隔離圃場実験」に対する申入書

愛媛有機農産生活協同組合



貴殿は、県内外における多くの生産者・消費者並びに県下各自治体からの懸念の声があるにもかかわらず、北陸研究センター（新潟県上越市）において、「遺伝子組み換えイネ(カラシナ由来の抗菌性タンパク質をもつ複合対病性イネ系統)の隔離圃場実験」を強行しています。

これに対し、愛媛有機農産生活協同組合は、今回の屋外栽培試験の実施が、日本の、そして国内有数の米どころである新潟県における安全・安心な米づくりに対する重大な脅威になると受けとめ、貴殿に対して以下の通り申入れます。

ご承知の通り、GM（遺伝子組み換え）作物・食品に対する世界の、そして日本の消費者・生産者からの評価については、いかなる調査結果においても大変厳しい評価が為されています。ましてや、主食であるGMイネに関しては、従来にも増して厳しい評価を免れ得ないことは、自明の理です

日本におけるGMイネの開発状況については、商業化並びに採算性の目処が立たないという問題及び、全国的な反対運動により、民間企業各社の事実上の撤退・凍結に続き、自治体（愛知県・岩手県等）における開発も相次いで中止となっています。もはや国内におけるGMイネの本格的な開発の主体は、国（農水省）の外庁的存在である貴殿・独立行政法人だけとなっている状況です。

そもそも、日本の農業・米作におけるGM技術導入の試みは、GM農産物輸入激化の呼び水となることが必至であり、国内農業・米作の衰退、自給力低下に拍車をかける誤った政治的・科学的選択肢であると私たちは考えます。

私たちは、貴殿の今回の実験に対し、以下の理由を持って反対します。

1、消費者の「選ぶ」権利・生産者の「作る」権利の侵害

消費者は安全な食材を選択し、自分達の食卓を守る権利があります。イネばかり

でなくGM作物については、常に交雑の危険がともない、消費者の安全な食を「選ぶ」権利は、脅かされ続けます。今回のGMイネは、日本人の主食である米でさえも消費者の「買わない」という声を無視して進められてきたものです。

さらには、消費者に安全な食を供給したいという生産者の権利をも侵害したものであり、消費者及び生産者の権利を侵害するものです。

1、新潟県産米に対する風評問題

日本の米どころである新潟県のイメージは今回のGMイネにより、著しく低下しています。これは、地元の生産者の方々の弛みない努力を水泡に帰すものです。

私たちは、生命と自然を守るためには、循環型農業を確立し、国内自給率を上げることであると確信し、新潟県産米の風評被害は、新潟県農業生産者のみならず、日本の農業生産者への打撃であり、ひいては、国内農業の衰退を助長させるものと考えています。

1、予測不能、回復不可能な実験

開発者は、GM 遺伝子が「お米（可食部）では発現しない」と宣伝していますが、食される玄米や緑米で発現し得るという情報を敢えて伏せており、誤った説明を行っています。

また、ヒトを含む生物が生体防御機能としても抗菌物質に耐性の病原菌が出現することが専門家により指摘されていることは、GM作物全てにも通じる大きな危惧であり、この危惧を上回るほどの利点がGM作物にあるとは考えられません。況してや日本人の主食である米は、既存の品種改良により、十分に発展しています。

愛媛有機農産協会は、今回の貴殿による栽培試験に対して、日本の農業の将来、食の安全と安心、環境保全の諸観点から、ここに反対の意志を表明し、貴殿が今回の栽培実験を早期に中断されることを強く求めます。

以上

2005年9月1日

独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農業総合研究センター 片山秀策 北陸研究センター所長 殿

「遺伝子組み換えイネ(カラシナ由来の抗菌性タンパク質をもつ
複合対病性イネ系統)の隔離圃場実験」に対する申入書

生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 理事会



貴殿は、県内外における多くの生産者・消費者並びに県下各自治体からの懸念の声があるにもかかわらず、北陸研究センター（新潟県上越市）において、「遺伝子組み換えイネ(カラシナ由来の抗菌性タンパク質をもつ複合対病性イネ系統)の隔離圃場実験」を強行しています。

私たち生活クラブ事業連合生活協同組合連合会（以下、生活クラブ連合会）は、今回の屋外栽培試験の実施が、日本の、そして国内有数の米どころである新潟県における安全・安心な米づくりに対する重大な脅威になると受けとめ、貴殿に対して以下の通り申入れます。

ご承知の通り、GM（遺伝子組み換え）作物・食品に対する世界の、そして日本の消費者・生産者からの評価については、いかなる調査結果においても大変厳しい評価が為され続けています。ましてや、主食であるGMイネに関しては、従来にも増して厳しい評価を免れ得ないことは、自明の理と言えます。日本におけるGM（遺伝子組み換え）イネの開発状況については、商業化並びに採算性の目処が立たないという問題や、この間の全国的な反対運動の成果もあり、民間企業各社の事実上の撤退・凍結に続き、自治体（愛知県・岩手県等）における開発も相次いで中止となっています。もはや国内におけるGMイネの本格的な開発の主体は、国（農水省）の外庁的存在である貴殿・独立行政法人だけとなっている状況です。

そもそも、日本の農業・米作におけるGM技術導入の試みは、GM農産物輸入激化の呼び水となることが必至であり、国内農業・米作の衰退、自給力低下に拍車をかける誤った政治的・科学的選択肢であると私たちは考えます。

また、貴殿の今回の実験には、具体的には以下の通り数々の問題点があります。

① 不十分な説明責任

- ・独立行政法人に課せられた「第一種使用規程承認組換え作物栽培実験指針」で定められている説明責任（地元住民の同意、またはそれと同等の十分な理解を得ること）が果たされていません。この点は、当実験に関して争われた「遺伝子組換え稲の作付け禁止等仮処分事件」（新潟地方裁判所高田支部）判決文においても指摘されており、また、県下各自治体から中止を求める決議があがっていることから明らかです。

② 新潟県産米に対する風評問題

- ・地元紙での誤報等で既に明らかな通り、イモチ病耐性のある新品種「コシヒカリ BL」との誤認が現実に生じています。

③ GM 遺伝子発現部位に関する誤った説明

- ・開発者は、GM 遺伝子が「お米（可食部）では発現しない」と宣伝していますが、食される玄米や緑米で発現し得るという情報を取えて伏せており、誤った説明を行っています。

④ ディフェンシン（カラシナ由来の抗菌性タンパク質）に関する基礎研究の不足

- ・ディフェンシンの作用機構（人体や環境への影響）は解明不十分であり、基礎研究の蓄積を待たない早急な屋外実験と言わざるを得ません。

⑤ GM 特許に関する誇大説明

- ・当 GM 実験に関して特許出願した国産技術・知見は、GM 関連特許の海外独占に対抗する技術力として「大変注目されています」と開発者は自ら謳っていますが、実際は拒絶査定（審判官が最終的に特許を受けることができないとして発する判断）されているレベルの技術・知見です。

生活クラブ連合会に集う私たち全国 26 万人余の組合員は、自給力の向上を共同購入事業の基本政策として掲げ、生産者・消費者間の信頼関係に基づく産地提携を築いてきました。そして、その基本政策の一環として、GM イネに反対する全国運動の一翼を担ってまいりました。

今回の貴殿による栽培試験に対して、日本の農業の将来、食の安全と安心、環境保全の諸観点から、私たちはここに反対の意志を表明し、貴殿が今回の栽培実験を早期に中断されることを強く求めます。

以上

疎甲第
107
号証
a
6

独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換えイネが商業栽培されれば、その収穫、調整、流通のそれぞれの過程で意図する、せざるにかかわらず、GM種の非GM種への混雑は避けられません。まさに市場に及ぼす社会的影響は計り知れません。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

(連絡先)

京都府久世郡久御山町市田石橋3
株式会社よつ葉ホームデリバリー京滋

代表取締役社長 村上忠政

TEL 0774 - 21 - 8170
FAX 0774 - 28 - 0319



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害もたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換えイネが商業栽培されれば、その収穫、調整、流通のそれぞれの過程で意図する、せざるにかかわらず、GM種の非GM種への混雑は避けられません。まさに市場に及ぼす社会的影響は計り知れません。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

〒466-0841
名古屋市昭和区広路本町4-2
くらしを耕す会 代表 瀬口俊子
TEL 052-851-7200
FAX 052-851-7299

北陸研究センター 所長 殿

前略

別紙の通り 申入書をお送りいたします。
私たちは兵庫県で活動しております連絡会(11団体
及、個人約2300人)です。

このたびの貴センターの遺伝子組み換えイネの栽培実験
に対し、早急に、慎重、且つ適切な対応をお願いします。

貴センターでは自然を操作できるとお考えでしょうか。
花粉の飛散を止めたり、交雑を避けたりできると
お考えでしょうか？ もしも交雑されてしまった場合でもか、
元に戻してもらえますか？ 是して、その責任は、誰か。
どのようにして、お取りになるのでしょうか。

国民からこんなに中止してほしいと声があかっているのは、
それが、取り返しのつかないことだからです。その実験は、
周囲を犠牲にし、新潟のお米の値打ちを下けてでも、
やる価値のあることですか？

たとえ国の方針であろうと、あまりに弊害のあることは
避けたいと思われませんか？

どうか、取り返しのつかないことにならないように
中止する御英断を心からお願いたします。

敬 具

05.9.14

パスチャライズ牛乳を広める兵庫連絡会
事務局 上田登美子

独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構

中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこなっている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害をもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換えイネが商業栽培されれば、その収穫、調整、流通のそれぞれの過程で意図する、せざるにかかわらず、GM種の非GM種への混雑は避けられません。まさに市場に及ぼす社会的影響は計り知れません。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

(連絡先) パステラル牧牛乳広め兵庫連絡会
代表 関 紀美枝




事務局 上田登美子
T. 0797-32-3670
F. 0797-32-6227

2005年9月15日

独立行政法人
農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

市民ネットワーク北海道
共同代表 小倉菜穂子
共同代表 佐藤 典子
札幌市中央区南2条東1丁目
TEL011-219-0112 FAX011-219-0113



遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

新潟県の主力作物であるコメの伝統的育種・研究開発ならびに環境保全型農業技術の改良普及に日々研鑽を積まれている貴センターに敬意を表します。

私ども、市民ネットワーク北海道は、北海道札幌市及び近郊市町において、6名の市議と1名の町議を擁する政治団体です。私たち市民が主体的に生活の問題解決を図ることで、豊かな地域社会の構築を目指しています。その一環として、「北海道遺伝子組み換えイネいらないネットワーク」に参加し食の問題にも取り組んでいます。

貴センターでは、現在、コシヒカリ系のコメ「どんとこい」にカラシナ由来の遺伝子を組み込んだGMイネの屋外栽培試験を行っています。新潟県上越地方は日本有数のコメの栽培適地であり、特に魚沼コシヒカリは北海道でも多くの人々が食べたいと考えている貴重な銘柄米です。生産者、流通業者、消費者は貴センターのGMイネ栽培試験に対し強い懸念を示し、栽培実験の中止を求めています。

アメリカやカナダ、さらに南米諸国の実例が示すとおり、遺伝子組み換え作物が野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物が遺伝子で汚染されます。気がつけば種さえも国内で採取できない状況となります。さらに食品としての危険性においてもGM「どんとこい」は、これまでにない抗菌物質生成イネです。抗菌物質に耐性の病原菌が出現すると専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。私たち消費者は、毎日大量に食べるコメだからこそ、安全なものを強く求めています。さまざまな調査で明らかのように、市民の8割強が遺伝子組み換え作物は食べたくないと考えている中、新潟の米が拒否されること、また交雑が明らかにならなくても風評被害にあうことは必至であり、新潟県内のコメ生産農家は甚大な損失を受けることとなります。さらに遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料等を請求されるなどの事態も予想されます。そのため、ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

最近、遺伝子解析でイネの有用遺伝子を特定した上で伝統的（非GM）技術を用いた交配により有望な品種を開発する企業が現れています。さまざまな問題をはらみ実用化の目処が立たないGMイネの栽培によって、これまで営々と積み重ねてきた先人の輝かしい成果である新潟のコメを失うことは新潟県ばかりでなく全国的な損失です。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟ならびに日本の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GM イネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が增大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

住所
組織名

蕨川郡斐川町大字莊原町2230番地1

まいにち生活協同組合

理事長 中川孝子



遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、遺伝子組み換え（GM）イネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。このGMイネの栽培実験へ新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。これまでも愛知県や岩手県など各自治体で遺伝子組み換えイネの実験が行われてきましたが、私たちは遺伝子汚染や食の安全に対して大きな脅威と考え、反対してきました。

そもそも日本の農業・主食である米作への遺伝子組み換え技術導入の動きはGM農産物輸入の呼び水となり、国内農業・米作の衰退、国内自給力の低下につながります。

また環境や健康への不安がある中で、組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑の不安から、米どころ新潟の米が風評被害にあうことは必至です。GM作物の野外作付けは、花粉の飛散が起き、周辺の一般農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあります。予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性を伴っています。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、修復不可能な事態が起きています。交雑により除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増え、逆に農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。遺伝子組み換えイネが商業栽培されれば、その収穫、調整、流通の過程でGM種の非GM種への混入は避けられません。まさに市場に及ぼす社会的影響は計り知れません。

食の自給・食の安全を守り、新潟の農業・農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

〒468-0008 愛知県名古屋市天白区一本松 1-101

生活クラブ生活協同組合
理事長 前田裕子



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換えイネが商業栽培されれば、その収穫、調整、流通のそれぞれの過程で意図する、せざるにかかわらず、GM種の非GM種への混雑は避けられません。まさに市場に及ぼす社会的影響は計り知れません。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

(連絡先) 札幌市豊平区西岡4条14丁目13-27

小川光子



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構

中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。


また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換えイネが商業栽培されれば、その収穫、調整、流通のそれぞれの過程で意図する、せざるにかかわらず、GM種の非GM種への混雑は避けられません。まさに市場に及ぼす社会的影響は計り知れません。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

中部よつ葉 
名古屋市東区葵一丁目14番
〒461-0004 ☎(052)937-1414

独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害もたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換えイネが商業栽培されれば、その収穫、調整、流通のそれぞれの過程で意図する、せざるにかかわらず、GM種の非GM種への混雑は避けられません。まさに市場に及ぼす社会的影響は計り知れません。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

反GMイネ生産者ネット
代 表 石川 豊久
441-0201
愛知県宝飯郡音羽町萩上林78-2
TEL: 0533-87-5537



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構

中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GM イネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が增大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

住所
組織名

〒596-0801 大阪府岸和田市箕土路町2-8-10
グリーンコープ生活協同組合おおさか
理事長 草場広宣



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構

中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

住所
組織名

〒664-0845 兵庫県伊丹市東有岡3丁目73-1
グリーンコープ生活協同組合ひょうご



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこなっている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

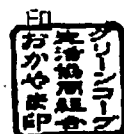
米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

住所 岡山市 下中野 311-113

組織名 グリーンコープ生協おやか子



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこなっている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が增大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

住所 鳥取県米子市昭和町68-1
組織名 グリーンコープ生活協同組合クローヴァ
理事長 上田育恵



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構

中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が增大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

住所 〒731-0103 広島市安佐南区緑井一丁目28-17

組織名 グリーンコープ生活協同組合ひろし

理事長 吉川るみ子



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構

中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまででない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

住所 〒755-0151 山口県宇部市西岐波316-191

組織名 グリーンコープやまぐち生活協同組合



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構

中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GM イネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

福岡市博多区博多駅中央街8番36号

グリーンコープ生活協同組合ふくおか

理事長 宮中 智美



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

住所 長崎市中里町1704番地
組織名 グリーンコープ生活協同組合
理事長 後藤典子



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害をもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

住所 佐賀市鍋島二丁目4-4
TEL(0952)32-2801(代)
組織名 グリーンコープ
生活協同組合 さが
理事長 荒木 潔 枝



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害もたらされる危険性があります。

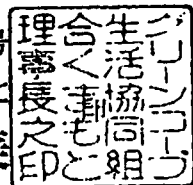
米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

住所
組織名

熊本市新土河原2丁目1番1号
グリーンコープ生活協同組合くまもと
理事長 中島明美



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GM イネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

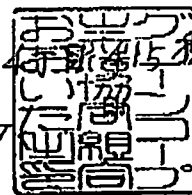
また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

住所 大分市大正寒田南の丁 4-1-1 大分県大分市
組織名 グリーンコープ
生活協同組合 ああい7



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GM イネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

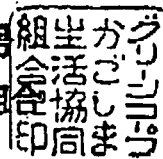
米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が增大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

住所
組織名

鹿児島市伊敷五丁目25番40号
グリーンコープかごしま生活協同組合



独立行政法人農産・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこなっている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に煮回さない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

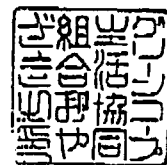
また、これまでになかった抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害をもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が增大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

住所 宮崎市柳丸町11番地2
組織名 グリーンコープ生活協同組合みやざき



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構

中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GM イネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

住所 福岡市博多区博多駅中央街8番36号
組織名 生活協同組合連合会

グリーンコープ連合



独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農研北陸研究センター 御中

遺伝子組み換えイネ栽培実験の中止を求める申入書

貴センターでは、カラシナの遺伝子を「どんとこい」に導入した、GMイネを開発し、今年度、野外実験（隔離圃場）をすすめています。

この遺伝子組み換えイネの栽培実験、新潟県の生産者、消費者がおこしている裁判に対して、全国の消費者、生産者は注目するとともに強い懸念を抱いています。

遺伝子組み換え作物は野外で作付けされれば、花粉の飛散が起き、周辺の農作物に影響が出ます。一般の農家の農作物に意図しない形で遺伝子組み換え作物が広がるなどの事態が予想されます。組み換えイネの野外栽培実験をすれば、交雑が避けられず、新潟の米が風評被害にあうことは必至です。

また、これまでにない抗菌物質生成イネによる抗菌物質に耐性の病原菌が出現するとの専門家の指摘もあり、予測不可能、回復不可能の被害がもたらされる危険性があります。

米国、カナダ、アルゼンチンなどの遺伝子組み換え作物栽培先進国では、遺伝子汚染が拡大し、取り返しのつかない事態が起きています。除草剤耐性の遺伝子が広がり、除草剤にも枯れない雑草が広がったり、殺虫性作物に対する耐性害虫が増えて、農薬の使用量が増大するなどの環境悪化も報告されています。また、遺伝子汚染された農家が、特許侵害で訴えられ、高額の特許料を請求されるなどの事態も頻発しています。

米国やカナダでは、遺伝子組み換え農業と、他の農業（慣行農業や有機農業）との共存があり得ないことがはっきりしてきました。とくに有機認証を取り消されるなど、有機農業が壊滅的な打撃を受ける可能性があることが示されました。ドイツやデンマークなどでは、遺伝子組み換え作物の栽培に厳しい条件を課して、事実上、栽培ができないようにしています。

遺伝子組み換えイネが商業栽培されれば、その収穫、調整、流通のそれぞれの過程で意図する、せざるにかかわらず、GM種の非GM種への混雑は避けられません。まさに市場に及ぼす社会的影響は計り知れません。

遺伝子組み換え作物の栽培は、実験栽培といえども日本の農業自体の崩壊を招きかねません。新潟の農業を守り、農家を守るために、遺伝子組み換え作物の野外での実験栽培の中止を求めます。

2005年9月16日

〒664-0026 兵庫県伊丹市寺本 1-148-202

共同購入会 あしの会

代表 奥谷 勉

